

プロ野球監督の楽観主義と次年度の勝率予測

—新聞記事の監督コメントの CAVE 法より—

二川優太 (和光大学)・〇いとうたけひこ (和光大学)

キーワード: 楽観主義, ポジティブ心理学, CAVE 法

【問題と目的】二川・いとう (2012) は, プロ野球監督の楽観主義と同年度の勝率との関係を考察した結果, 深い正の連関があることを見出した。本研究の目的は, 監督の試合後の勝敗の帰属の説明スタイル (Rettew & Reivich, 1995) を CAVE 法 (渡辺ら, 2010) により評定し, その監督の楽観主義・悲観主義の説明スタイルと次年度のチーム勝率との関係を明らかにすることである。

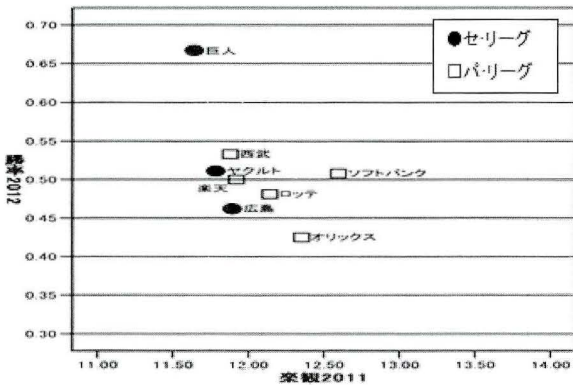


図1 楽観主義(2011年)と勝率(2012年)との関係

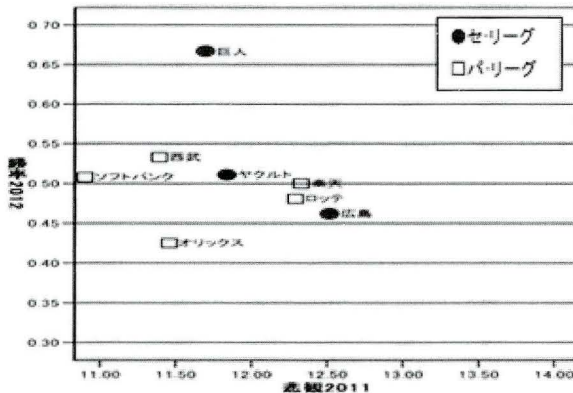


図2 悲観主義(2011年)と勝率(2012年)との関係

【方法】研究対象: 「スポーツニッポン」「日刊スポーツ」「スポーツ報知」「産経スポーツ」の4つのスポーツ新聞に掲載された, 12 球団の監督の試合後のコメント記事。2011 年 4 月より 2011 年 10 月までの記事を対象とした。渡辺ら (2010) により, 楽観主義・悲観主義を評定し, 12 監督ごとに平均値を求め, 2012 年度シーズンの 8 チー

ムの勝率との関係を(中日・落合, 阪神・真弓, 横浜・尾花, 日本ハム・梨田の4名は退任した)明らかにする。【結果】コメントは全部で 5454 記事あった。勝ち監督 2379 コメントと負け監督 2702 コメントを分析対象とした。(1) 2011 年度セパ監督の勝利試合の楽観主義と 2012 年度のチーム勝率との関係を図 1 に示した。2011 年度の勝利試合の楽観主義の高い監督は, ソフトバンク・秋山監督とオリックス・岡田監督であったが, 2012 年度のチーム勝率は高くなかった。一方, セリーグ優勝チーム巨人・原監督は, 2011 年度の勝利試合の楽観主義は高くないが, 2012 年度のチーム勝率は高いという結果になった。2011 年度は正の相関 $r = .392$ ($p = .208$) であったが, 2012 年度は $r = -.562$ ($p = .147$) と負の相関となった。(2) 2011 年度セパの敗北試合の悲観主義と 2012 年度のチーム勝率との関係を図 2 に示した。2011 年度の敗北試合の悲観主義が低い監督は, ソフトバンク・秋山監督と西武・渡辺監督であったが, 勝率は高くはなかった。2011 年度の敗北試合の悲観主義がやや低かった巨人・原監督のみ, 2012 年度チーム勝率は高かった。相関係数は, 2011 年度は $r = -.312$ ($p = .323$) であったが, 2012 年度は $r = -.178$ ($p = .673$) と低くなった。(3) 2011 年の楽観主義の合成値 CPCN と 2011 年の勝率とは有意の相関 $r = .619$ ($p = .032$) があったが, 2012 年度は $r = -.105$ ($p = .805$) と無相関になった。【考察】監督の楽観主義・悲観主義は, 二川・いとう (2012) では, そのシーズンのチーム勝率とは関係があったが, 本研究では次年度のチーム成績を前年度の監督の楽観主義・悲観主義で予測するのは難しく, Rettew & Reivich (1995) と矛盾する結果となった。【文献】● Rettew, D. & Reivich, K. (1995) Sports and explanatory style. G. M. Buchanan & M. E. P. Seligman (Eds.). *Explanatory style*. New York, NY: Routledge Pp. 176-188. ● 渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代 (2010) 楽観主義内容分析法の説明スタイルに関する測定法: CAVE 法(説明スタイルの逐語的内容分析)に着目して マクロ・カウンセリング研究 第 9 巻 p48-59. ● 二川優太・いとうたけひこ (2012) プロ野球監督の楽観主義と勝率との関係: 新聞記事の監督コメントの CAVE 法による評定より 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集 p502.